

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170501795), 法人名 (三愛商事株式会社), 事業所名 (グループホーム 里の家平岸 ぼぶら), 所在地 (札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号), 自己評価作成日 (令和2年5月1日), 評価結果市町村受理日 (令和2年8月6日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2017\_02\_2\_kani=true&JigvosvoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年7月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 with detailed descriptions and evaluation results.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、毎夕の申し送りでは職員が集まり、理念を唱和し、実践につなげられるよう確認しあっている。日頃のケアや利用者との関りにおいて職員が統一した意識をもって対応できるよう理念を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しへの参加や町内募金活動への参加している。近隣の他事業所で行ってる認知症カフェや音楽イベントに参加する機会もある。散歩の際、近所の方と挨拶を交わす等、日常的に交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域のイベントへの参加、外出行事で地域の飲食店、複合施設を利用した際等に、認知症高齢者のケアを目にすることで、少しでも理解に繋げることが出来るように取り組んでる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、日常の取り組みや、行事、事故等の事例について報告を行っている。利用者、家族、地域住民、他事業所の方等、参加者との意見交換も行い、ホームでのケアに活かせるように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に管理者が市町村担当者と連絡や情報交換を行っている。認定調査、生活保護者の実態調査などスムーズに行えている。職員は管理者より報告を受け、情報を共有し、把握できるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム周辺は車の交通が多く、玄関の施錠は行っているが、例えばユニット間の行き来や近隣の散歩などの機会を大切にしており、安全に配慮しながら閉鎖感の払拭や、尊厳の保持を意識したケアを行っている。身体拘束適正化委員会を設置し、見直しの機会もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止をテーマにした内部研修の開催があり、外部研修の参加等学ぶ機会を持っている。管理者からも見過ごすことも同等の行為、準ずることも行わないよう指導を受けており、事前対応に努め、虐待に繋がらないケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修で権利擁護に関することを学ぶ機会をもっている。日常的に管理者より利用者が尊厳をもって生活することができるように指導を受けている。実際に制度の利用者はいないが、職員は理解、把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が必要事項を十分に説明した上、不安や疑問点に丁寧に答えるよう努めている。家庭内の事情や、金銭面の不安など、配慮が必要な内容の話も管理者が中心となり対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時、普段の関り等から利用者や家族の運営に対する意見や要望がないか随時確認するよう努めており、知り得た情報は管理者や会議などで報告し反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は申し送り、定期的な面談、ユニット会議の際に、職員の意見を聞き取りしている。職員からも随時管理者へ報告している。管理者は、職員からの提案を吟味した上で、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の勤務希望や働きやすい職場環境作りに努めている。管理者は定期的な職員との個人面談で、目標の設定と達成度を一緒に確認している。やりがい、向上心が持てるような助言も日々欠かさず行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者からの報告をもとに、職員の力量の把握に努め、各職員に必要なスキルを獲得できるように内部研修の調整及び外部研修参加を促している。日常的に管理者から職員へ各ユニットで個々の利用者に向けた支援の指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議やグループホーム協会を通じて、同業者と情報交換を含めた交流ができています。外部研修や他事業所のイベントに参加し、勉強の機会、ネットワークづくりともなっており、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族に聞き取りを充分に行い、ニーズを掴み、より良いサービス提供を目指している。利用者との関わりを多く持ち、信頼関係を作り、情報を職員皆で共有して支援に活かせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族間の実情に配慮しながら、キーパーソンに限らず複数の家族から情報を把握するよう努めており、初期に限らず、入居後も近況報告と合わせて、要望や心配事がないか多方面の意見を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は、新しい環境に慣れてもらえるように支援している。利用者や家族の思い、身体機能、健康状態とを全て考慮した上で、今何が必要なのかを見極めて対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や余暇活動等、何事も一緒に取り組むことにより、本人の自信や、職員との信頼の構築に繋げている。利用者を人生の先輩として敬意を払い、職員が分からない事を教えて頂く姿勢で接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族を離して考えたり、家族の意向に偏らないよう配慮したり、職員や医療主体で生活が決まっていかないうり取り組んでいる。家族、本人、職員の3者それぞれがお互いに支えたり、支えられる関係になよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた家の近隣の方や、利用していたサービスで知り合った友達など、本人と家族の意向を確認してから面会を受け入れたり、遊びに出かけるなど、良い関係が続くよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の活動や集団行事などでは、利用者同士で助け合う姿や協力性があり、レクなどで上手く行かなかった時には慰めたり、励まし合う姿もある。集団で孤立しても個別では仲が良い様子もあり職員は関係性に合わせ適切に介入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も、本人や家族から相談のあった際は親身になって応じている。家族と思い出話をすることも多い。希望がある時は入居や介護のアドバイス、就業など幅広く相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話や、介助時の関りなどを通して意向を確認しており、意思疎通が困難な方に対しても、表情、身体の動き、反応、あるいは家族の思いも踏まえ本人本位を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや医療機関等の他に、本人や家族からも、例えば町内会活動や得意だった趣味等、生活のヒントとなるような幅広い情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調、精神状態、出来る力の現状を総合的に把握し、保持、向上に努めている。各利用者の出来ることを把握し、家事、趣味活動にお誘いしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、看護師、薬剤師などの関係機関からも意見や考え方を得られるよう努めている。職員は利用者と家族の希望や意向、本人の生活状況を踏まえ、マイナスな視点や一方的な評価にならないよう配慮して取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って取り組んだ結果や利用者の反応・変化を記録している。他にも普段と違う様子や、職員間で口頭で確認し合った気づきなども書面に残し、次からのケアにつながるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事故などのリスクマネジメント、個人情報などの法令順守、他8名との集団生活などを踏まえながら、本人や家族が必要と考えるサービスが無い？足りているか常に考えて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の公共施設、高齢者住宅等の催しに参加する機会や、地域住民によるボランティアの受け入れを行っている。地域の催しへの参加は、利用者と社会とをつなぐ良い刺激となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療では本人の状態に応じて、内服薬の調整や、点滴等、柔軟で適切な医療支援を受けることができている。入居以前のかかりつけ病院への通院も継続できており、受診結果については協力医療機関へ伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に対しては電話連絡や訪問時などで随時医療的な相談や報告が行えており、医療面の支援や健康面のアドバイスを受けている。医療相談の上で緊急性や必要が認められた際には医師への相談や受診といった指示を受ける時もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの治療状況の説明や、本人や家族の意向を踏まえ、主に管理者が医療相談員との退院調整を行っている。ホームでできる医療的支援や、リハビリ、通院など、ホームで支援可能な範囲についても主に管理者が話している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人の体調に大きな変化が見られた時などに、本人、家族、主治医を交え話し合いをしている。看取りの同意については、家族が十分理解した上で開始できるように、担当者会議を開催し、管理者、主治医からの説明も実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて、マニュアルを確認する機会を設けている。可能な限り事前の対応で防ぐことができるよう日々取り組んでいる。職員間で急変時の対応について定期的に確認し、情報共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、様々な時間帯や火災以外を想定した訓練を行っている。避難訓練については地域の方にも随時参加の依頼や結果を報告し、協力体制の構築に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	例えばジェスチャーや優しく触れるといった非言語コミュニケーションも取り入れ利用者個々に合わせて関わっている。尊厳や羞恥心にも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれのタイミングや気持ちに合わせて、無理強いせず、選択肢があったり、自己決定が出来るような声かけや場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者のペースにあった生活が出来るように、本人への希望の確認、その時の状態を確認し、職員間でも情報を共有した上で対応している。離床、食事、排泄等の時間も各利用者に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のこだわりや、今までの生活の中で築いてきた自分なりのおしゃれ、身だしなみ等を大切に支援している。毎日の着替えの際に本人と一緒に選んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は利用者の希望に合わせて作っている。調理や片付けも、自分で出来ることは行えるように各利用者に合わせた支援をしている。食事内容は季節感、彩り等、視覚での刺激も大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事は、各利用者の状態を把握したうえで、一人ひとりに無理がないよう対応し、摂取量を維持できるように努めている。個々の好まれる飲み物食べ物の把握をし、場面転換を図り勤めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、各利用者の状態に合わせた口腔ケアを実施している。例えば仕上げを手伝ったり、洗口液やウエットガーゼなど口腔ケア用品を使うなど本人の負担や臥床後の誤嚥などに繋がらない様配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自力でトイレでの排泄ができるように支援している。尿意のない方、曖昧な方には、定期的にトイレ誘導、パット交換など適切な介助をしている。失敗のないように排泄間隔を掴み、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がスムーズに出るように、食物繊維を多く含んだ食事や、十分な水分摂取量を維持し、毎日適度な運動をして頂くように支援している。他、便秘時に牛乳を提供する等、下剤に頼らない工夫もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体調、失禁があった場合等その時の状況に合わせて柔軟に対応できている。無理強いせず、本人が望む時に入れるようにしている。入浴中は浴室で職員とゆっくりと会話する機会ともなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休憩を取れるよう配慮し、無理してしまう方の場合は、こちらから休息を促す対応もしている。夜間の安眠を促す為の対応として、利用者の日中の活動を増やしたり、悩みごとの解消を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示や薬剤師の助言に従い服薬支援を適切に行っており、主な効能、副作用など把握に努めている。薬が変更になった際は、その後の変化の様子観察し記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、本人や家族との会話、日常の様子の中から、趣向を把握するよう努めており、知り得た情報は日常の活動や、行事などで実施できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より、玄関先への外気浴、庭での昼食会、散歩、行事での買い物、外食、季節を感じられるドライブ等を実施しており、個別の行事として、個々の行きたい所へ行くといった取り組みも行ってきた。現在はコロナウイルスの影響により活動を自粛している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的にホームで管理しているが、例えば外出時、各利用者の金銭事情に配慮しつつ、本人自身による支払いやお金の確認など支援しており、安心感や社会とのつながりを大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力や希望に合わせて連絡手段を選べるよう支援しており、例えば予め家族に対し連絡が取れる都合の良い時間を聞いておくなど、双方にとって気持ちの良いやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染対策や、入居者目線での導線確保、危険個所の発見など、職員が早期に空間の変化に気がつけることを目的として、共有部の清掃は主に職員が毎日行っている。ソファやテーブルの変更や配置換えなどは入居者の意見や入居者同士の関係性を踏まえ行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	さりげなく一人になれたり、集団の中であってもくつろげたり、自分の席を大切にしたりと、その日の状況や個々の思いに合わせて、9名がバランスよく過ごせたり、安心して過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力を頂き、馴染みの家具や壁の装飾を職員都合で行わず、本人と話し合いながら、見やすく、使いやすい場所に設置するよう努めている。心が落ち着く、安心につながる環境になるよう家族の写真を居室内に飾る等している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使用するものは、利用者にとって取り出しやすい場所に配置している。例えば、パズルや雑誌の置き場所については、手すりもあり、職員がさりげなく見守れる、安全に配慮した場所になっている。		